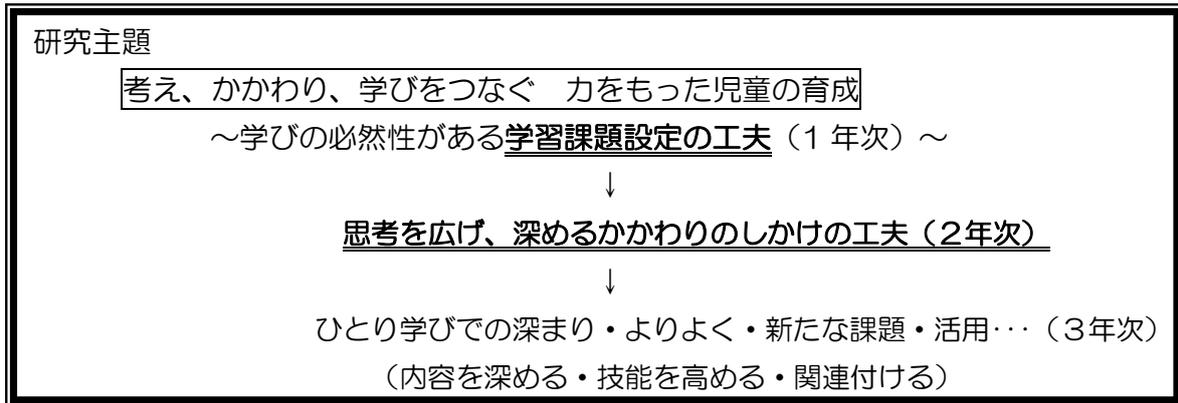


研究の系統性と階層性(1・2年次から3年次へのつながり)

(1) 研究主題サブテーマの骨子



★1年次、**考え**の部分を中心に組み組んだ。(＝主体的)



「教えたこと」を「学びたいこと」へ転換
「与える」から「引き出す」へ

- ・「～しよう」「～考えよう」という活動(行動)目標では、何を考えればいいのかわからない。
- ・子どもの意識の連続性を大切にした、
問題→気づき・問い→学習課題 の流れをいかした授業づくり。
＝子どもが考えたい課題
見通しが持てる課題
(なぜ?そっくり!だけど、ちょっと違うな?やってみよう…)

学びの必然性のある学習課題設定の工夫

・・・考える必然性、学習意欲を高める「問い」を引き出すために

★2年次は、**かかわり**の部分を中心に組み組んだ。(＝対話的)



<関わりの必然性を考えて…>
かかわりを持たせるために・・・

- ・「一人学び」をしっかりと = 思考ツールの活用等
- ・ペア・グループワークの
タイミング・内容(意図)・設定の工夫(場・時間・人数…)
- ・全体 ← ファシリテート

課題解決に向けた、単元設計としかけ。

思考を広げ、深める「かかわり」のしかけの工夫

★3年次は、**学びをつなぐ**の部分の特に取り組む。(＝深い学び)

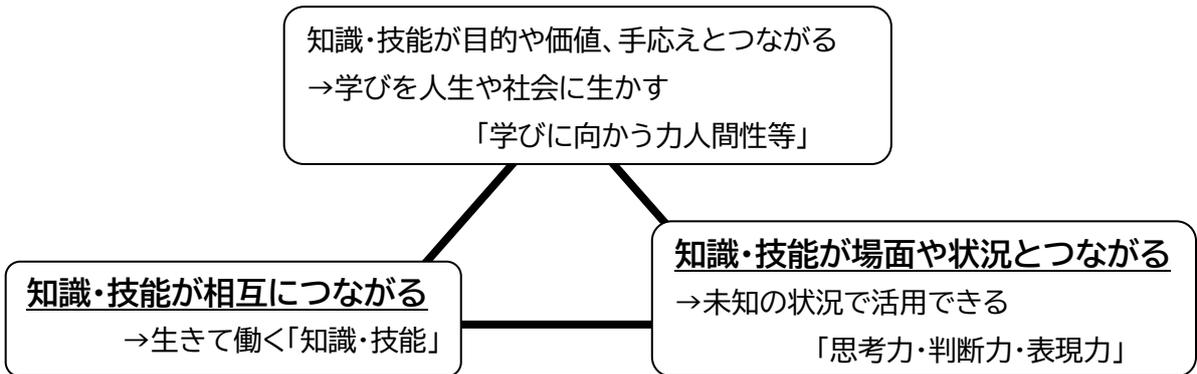
小グループやペアでの問題解決や話し合い活動を授業に取り入れても、できる子まかせて自分で考えようとしていない子が出てしまったり、理解が早い子への安易な同調によって出てきたグループの考えを羅列的に発表して終わってしまったりして、個の学びが深まらない(協働的な学習で、話し合いが活性化し、能動的な学びが実現できても、個々の学習者の学びが深まらない)という問題状況。

<深い学びとは?学びをつなぐとは?>
 必然性のある学習課題について主体的に**自分の考えを持ち、**
 ↓
 GW(ペアも含む)で**思考を広げる**ことは効果的。
 ↓
 広げた思考と・・・
 不正確で断片的な**知識** → 知識の整理・統合・一般化・抽象化
 (既習知識・インフォーマルな知識・素朴概念等も)
 相互に**関連付け**、比較検討、俯瞰的に活用・発揮
 ※似たような学びの繰り返し→様々なことをたくさん学んだと認識
 ※振り返ること自体を振り返る メタ認知

GWで広げた**思考を深める「振り返り」**＝**「ひとり学び」**の充実。

「振り返り」＝学びの中での気づき－わかったこと、わからなかったことや感想などを、自分の言葉と文字で表現することで改めて理解する。書き出すことで、自分がどの程度理解しているのか、その結果をこれからどのようにしていけばいいのか、客観的にとらえる。子どもが学習内容を既習の知識と結びつけたり、学習内容によってどのような**自己変容があったかに気づいたりして、次の学びへの意欲につながる**ポジティブな余韻とともに、得たものを持ち帰ることがポイント。学習活動の終末に一定の長さの**文章を書くことで、熟考**を促すとよい。

<深い学びが実現したときの子どもの姿>
 知識が構造化し、「深い学び」が実現している時、子どもは「なるほど」「そうだったんだ」などの手応えを感じているはず。それはおそらく、とても快適で心地良い状態なので、子どもの表情は豊かになるだろう。発言や文章、絵や図に表れることもあるだろうし、年齢や教科によっては身体的な動きとなって表れることもある。



資質・能力の三つの柱と「知識の構造化」の関係

目的や価値、手応えとつながり、構造化して高度化した知識は「どのように社会・世界と関わり、よりより人生を送るか」という「学びに向かう力・人間性等」になると考えられる。

▶ 学びを人生や社会に生かそうとする

学びに向かう力・人間性等

④ 知識が目的や価値、手応えとつながるタイプ

▶ 生きて働く

知識・技能

① 宣言的な知識が
つながるタイプ ネットワーク型I・II

② 手続き的な知識が
つながるタイプ パターン型

相互につながり合った知識や技能は、生きて働く「知識・技能」（何を理解しているか、何ができるか）になる。

▶ 未知の状況にも対応できる

思考力・判断力・表現力等

③ 知識が場面とつながるタイプ

場面や状況とつながった知識・技能は「思考力・判断力・表現力等」（理解していること・できることをどう使うか）になると考えられる。

音声で思考を広げ
(他者との対話的場面)



文字で思考を深める
(熟考する場)